

H29地域協働研究（ステージⅡ）採択課題一覧表 【研究期間：H29年6月～H31年3月】

研究番号	研究課題名	研究代表者			共同研究者 (提案団体名)	他の構成メンバー			研究区分	研究分野	研究課題の内容	研究フィールド	研究協力者
		所属	職	氏名		所属	職	氏名					
H29Ⅱ01	栗駒山火山ハザードマップの普及啓発に関する研究	総合政策学部	教授	伊藤英之	岩手県総務部総合防災室	アジア航測株式会社仙台支店 岩手大学地域防災研究センター 岩手県総務部総合防災室	課長 客員教授 主査	新井瑞穂 土井宣夫 横森宅弥	一般課題	地域マネジメント	安心安全な地域	一関市	栗駒山麓ジオパーク推進協議会
		① 解決を目指す課題(何を解決するのか) ・登山者に対する火山に関する知識の普及・啓発 ・地元観光事業者への普及啓発 ② 実施方法・取組みの概要 ・栗駒山火山ハザードマップに関する理解促進手法の開発 ・理解促進手法の実践と評価											
H29Ⅱ02	小中連携したシームレス防災学習プログラムの開発と実践	総合政策学部	教授	伊藤英之	川口中学校区 ファミリースクール	岩手町立川口中学校 岩手町立川口中学校	校長 教諭	鈴木美成 小野寺邦俊	一般課題	地域マネジメント	安心安全な地域	岩手町	岩手県教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
		① 解決を目指す課題(何を解決するのか) ・小中が連携した地域防災学習の実施 ・地域コミュニティを巻き込んだシームレスな地域学習の実践 ・大学の関与なしに持続的に実施可能な地域防災学習プログラムの開発と実践 ・岩手県全体を視野に入れた防災学習手法の開発と提供 ② 実施方法・取組みの概要 ・総合学習の時間を用いて、小学校高学年から中学卒業までのシームレスな地域防災学習の実施 ・小中学校間における相互地域防災学習の実施による地域の防災力向上											
H29Ⅱ03	空家対策の法的対応の検討（市町村条例のバージョンアップ等）	研究・地域連携室	特任准教授	千葉実	岩手県県土整備部建築住宅課	岩手県県土整備部建築住宅課	主査	及川達也	一般課題	地域マネジメント	持続可能な地域 安心安全な地域	盛岡市、北上市、西和賀町	上智大学法科大学院、千葉県流山市政策法務室、盛岡市市民部くらしの安全課、北上市保健福祉部健康増進課、西和賀町ふるさと振興課
		① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 条例を制定・施行して空家対策を行っている盛岡市・北上市・西和賀町が直面し苦慮している即時執行（空家が危険等の場合に所有者等に措置命令等を行わずに市町村が直せず危険回避措置を講ずる。屋根が崩落していたり、そうなりそうな場合は防御ネットを張る。壁が崩落している等の際、たたき落とす等。）に要する費用の徴収方法は実務でも学問的にも整理されていないところである。本研究では、それを理論的に整理し、条例改正により根拠づけることができるよう支援する。 また、相続が進んでいない空家対策にも苦慮していることから解決法を提案する。 加えて、空家対策特別措置法が施行され2年たったことから、当該法と条例の関係を理論的に整理し、法と条例が一体となって機能するよう助言する。 ② 実施方法・取組みの概要 本学、岩手県が盛岡市・北上市・西和賀町の事例を分析し課題を抽出し、類似の仕組みを有する他分野の制度や実務を研究し、それらを反映させながら対応方策の仮説を立てる。空家対策法制の研究において国内をリードする研究者と弁護士と議論するとともに、自治体政策法務の全国的な研究会等で報告し、議論する。その議論を踏まえ、研究結果をまとめ、県内市町村に研究成果を報告し取組みを促す。希望する市町村には条例改正に向け個別に指導・助言する。 これらの取組みを広報し、取組みを広げるとともに国に法改正の検討も促す。											
H29Ⅱ04	バーチャルリアリティを活用した九戸城跡の可視化に関する研究	ソフトウェア情報学部	准教授	プリマ・オキディッキ	二戸市産業振興部商工観光流通課	ソフトウェア情報学部 二戸市役所商工観光流通課 二戸市役所商工観光流通課	講師 副主幹 主任	伊藤久祥 田山裕之 五日市知之	一般課題	地域社会	持続可能な地域	二戸市	二戸市教育委員会文化財課
		① 解決を目指す課題(何を解決するのか) 九戸城跡は本年4月6日に「続日本100名城」として選ばれており、産業振興のための観光資源として整備が進められている。平成28年度地域協働研究では、バーチャルリアリティ(VR)を活用した九戸城跡の可視化がなされたが、細部について更に歴史専門家と九戸城ボランティアガイドと議論しながら、その改善を図る必要がある。一方、VRとAR（拡張現実）との融合技術をもとに、観光案内や九戸城散策ルートなどの最も効果的な方法を評価する必要があり、制作したCGも持続的に双方向の担当者で改善する仕組みを構築する必要がある。 ② 実施方法・取組みの概要 上記の課題を解決するために、まず双方が九戸城跡のCGを閲覧し議論しながら、その場で（またはインターネットを通じて）細部まで編集できる実用的ソフトウェアを開発する。次に、VRとARを利用して幅広い観光客を考慮したアナログ・デジタルの観光案内パンフレットを試作・評価する。最後に、CGコンテンツをクラウドで管理し、双方向の担当者が編集・追加をできるようにする。											